

第 5 回天王台南地区課題別地域会議（高齢者ケア）記録

1 開催日時 平成 29 年 1 月 28 日（土）13 時 30 分～15 時 45 分

2 場 所 近隣センターこもれび 会議室 1

3 参加者

(1) 高齢者ケア分科会委員

天王台高齢者なんでも相談室長、第 3 地区民生委員・児童委員協議会副会長・委員、ひなぎくの会代表、天王台南ふれあいサロン代表、我孫子市天王台自治会長、東我孫子区自治会副会長、東高野山自治会協力委員

(2) 我孫子市

市民活動支援課 課長・主任

(3) 天王台南地区地域会議推進委員会

副委員長、高齢者ケア分科会座長、事務局員 2 名、まち協委員 1 名

※配布資料

- ・会議次第・名簿
- ・講演資料 「地域包括ケアシステム（イメージ図）と、新しいまちづくり」
「協働、今なぜ」
- ・自治会長及び老人クラブ会長に対するアンケート調査（案）
- ・12/1 号広報あびこの地域会議の紹介記事
- ・青山台見守りあいネット関係説明資料

4 議 事

(1) 司会者挨拶（副委員長）概要

第 5 回課題別地域会議ということで、高齢者ケア分科会は、都合 3 回目になります。

今回は健康生きがいづくりアドバイザー協議会の大和さんから「地域包括ケアシステムと新しいまちづくり」についてご講演いただきます。大和さんは青山台にお住まいで、社協活動でもお世話になっている方です。住民の立場での講演、心強く思っています。

1 月の日本老齢学会で 65 歳～75 歳を準高齢者・プレオールドにしよう。との提案がありました。我孫子市の 1 月 1 日現在の高齢者の状況は、人口 132,604 名、65 歳以上男性が 17,197 名、女性が 21,112 名、計 38,309 名、75 歳以上が男女計で 17,731 名、85 歳以上が 4,345 名。天王台南地域では人口 22,783 人、65 歳～74 歳が 3,274 人、75 歳以上 2,412 人、65 歳～74 歳が昨年 4 月現在では 14.7%が 14.4%に、75 歳以上が 11.0%が 11.7%に、高齢化率が 25.7%から 26.1%に上っています。

日本老齢学会では、65 歳以上の健康な人が社会に出たり、ボランティアなどで活躍して

もらおうとの趣旨で提案されている。年金が70歳になるんじゃないかと危惧する反応もありますが。

地域包括ケアの取組では、大半は行政がやることでしょうか、地域の自助・協助で何ができるか、社協はおしゃべりサロン、健康フェア、シニアいきいき講座などを行っています。

PRが十分でないこともあり認知されていないので、地域会議の中でもお話し合いをお願いしたい。

(2) 課長挨拶概要

今回は高齢者ケアがテーマですが、この地区の地域会議は環境保全、防災・防犯等、5分科会で活動しています。地域会議は我孫子市全体では、まだ半分の地域でしか活動できていません。その中でこの地区が一番進んでいます。

環境面ではガラス被害の対策でサークルを設置して取り組んでいます。今までは市は黙認でしたが、地域会議で提案がありましたので市長の方から活用できないかとの宿題が出て市でも動いています。地域会議の説明について12月1日の市の広報に載せましたが、地域会議は誰が主役という事はありません。今回は高齢者ケアがテーマですが、地域での困り事をなんでも出して頂き、皆で議論していくことが大切ですのでよろしくお願いします。

(3) 講演

テーマ 「地域包括ケアシステムと新しいまちづくり」

講師 我孫子健康生きがいづくりアドバイザー協議会 会員

○講師の紹介(座長) 省略

○地域包括ケアシステムを地域会議でとりあげているのは、ここの地域だけなので講師を引き受けさせていただいた。(講師)

○地域包括ケアシステムの概要について

2015年の介護保険の制度の改正でできた言葉で、一般の市民の方にはあまり知られていないと思われます。介護保険制度は3年ごとに改正になります。

来年度はどうなるかと言うと「厳しくなるよね」が大方の見方です。例えば負担が増えるのではとか、国から市町村への事業の移行が要支援から要介護に上っていくのでは等の懸念があります。色々の会議に参加してみて市町村によって対応が異なることが解りました。地域の特性に合わせてやりなさいよとなっており、地域格差が出ることを理解していただきたい。

○地域包括ケアシステムのイメージ

説明の最後に「保険者である市町村が地域の特性に応じて作り上げていくことが必要です。」と記載されています。自由にやっていいですよという反面、それだけの責任がありますよとも読み取れます。

○社会保障制度と地域包括ケアシステムの関係

定年になり地域に戻れば、大きな違いがあり、縦型から横型に代わり、ガラリと変わる。会社から地域に戻ったら、人が中心、平等、ご婦人が活躍等、昔は定年退職すると残りの人生を余生と言いましたが、現代は第 2 の人生、第 3 の人生は男性でも平均寿命が 80 歳で長い。この期間に介護保険事業の新たな運用として地域包括ケアシステムがあります。

○介護サービスの流れ

非常に複雑で難しい。

地域支援事業：地域で作り上げていく=特色を反映していく

高齢人口の増加と社会保障費の増加があり、打開するための仕組み、サービスの充実や高齢者の社会参加、サービスの充実は望むところですが、皆さんを必要とされている。受けるばかりでなく、皆さんの能力を活かして貢献が望まれている。行政がやってくれるのを待つスタンスは成り立たない時代。自分が住むまちづくりの協働が不可欠です

○介護保険制度の改正と自治会（地域包括システムのイメージ）

高齢者の支援は医療、施設だけでは成り立たない時代が来た。地域の自治会や住む人の参加が望まれる。

生活支援・介護予防に自治会の存在がますます重みを増してきている。

○まとめると、自分たちが住む「まちづくり」では

- ① 住民が受けるサービスは、国民として一律平等ではない感じ
- ② 地域事情（地域力）により格差が起こりそう。
- ③ 地域の当事者で対応、解決する。

提案としては、我孫子の実情を踏まえて実現に向けた固有のビジョンを共有化することが重要。我孫子市の施策を基に、イメージ図を描き確認する。

- ④ 結果、行政や当事者（住民・各団体）が「何を」「何のために」「どこまでやる」範囲をイメージして行動ができることが限られた時間の中で必要。

○地域の健康診断

人的資源

物的資源

人的資源をどう活躍していただくか。

天王台駅南口前の花壇を皆で整備して地域の広がりを作る。

公園の遊具の活用

探し、見つけ、そして地域と組み合わせる

自分たちになれば、外で探す。他の力を活用する（NPO等）。

○参考資料・事例の紹介

日本の 1 日（厚生労働省資料）

国の医療費 1 日 1,000 億円 年間 40 兆円

・久寺家地域の取組み

よりみちサロンを立ち上げ、いろいろな活動ができています。

「いざという時の道しるべ」の発行

・青山台の街路灯の LED 化

定年退職者の力を活用した事例・現役時代の知識の活用・・・60 万～70 万円の節減を他の事業に活用

・市のホームページ（自治会の活動紹介）の活用

○協働について

協働とは、同じ目的のために協力して働くこと

協働は手段、結果住民・市民の満足度向上につながるもの

目的・解決したい課題を共有する。その結果成果も共有できる。

公共性のある課題、行政施策と同じ方向性を持つこと

生きていくわがまち、豊かな人財の活用と「場」の提供をはかる。

※質疑

(室長) お話を聞いて、そのとおりだなと思います。行政や関係者だけが何かを行う時代ではなく、自分達が何かを担っていく時代にならなければいけないと言うことは、地域のことは地域でという言葉が出だしたのは地域包括支援センターが設立された 18 年頃ですので、この 10 年で皆さんの意識が随分上がりこのような団体が出てくる、すごいなと思いました。お手伝いをしていかなければと思いました。

(講師) なんでも相談室のご活躍に感謝申し上げます。

(講師) 自治会の中で何か意見をいうと、いい意見でもお前やれよということになり、何も言わなくなるということはありませんか。

もったいないよね、なんかいい方法はないか。それぞれの自治会で工夫されていることを市のホームページの活動紹介を使って知らせてほしい。

市のホームページを活用してほしい。笹山自治会の夏祭りの例で子どもから高齢者まで役目を割り当てて祭りを成功している。

多くの人に関わることにより地域の活性化につながると感じました。

(副委員長) なんでも相談室、民生委員、サロン活動、皆さん地域包括ケアシステムに関わっておられますが、活動する人が少なくその環が広がっていかないということもあります。

— 休憩 —

(4)自治会に対するアンケート調査(案)について

座長から自治会長及び老人クラブあてアンケート調査の内容について説明

- ・通知文に「地域会議設置の経緯等については、別添の資料を参照願います。」を追記するとともに、広報あびこの 12/1 号の記事のコピーを添付します。

※質疑

- (室長) 回答はふれあいサロンの名前の団体だけですか？サロンの名称以外は回答してくれないのでは、青山台ではふれあい広場にしている。小さいコミュニティも知りたい。
- (座長) ふれあいサロンの説明書きの内容の活動を行っている自治会に記載いただきたい。ふれあいサロンの名称にこだわりません。
- (室長) 説明が必要では
- (座長) 「高齢者が集う場」に変更しましょうか。
- (副委員長) ○○さんのサロンの名称は
- (事務局) 自治会の事業としては認められていないが、「湖畔」という名称にしている。
- (事務局) 「高齢者の集う場」が良いのでは、すべての活動を書いてもらうのか？
- (座長) 自治会に対して聞くので、今回は自治会の事業に限定したい。
自治会は、当事者でない事業内容を把握していないと思われる。
- (委員) 自治会が事業として認めないので、民生委員など有志で立ち上げた。
- (委員) 東高野山は、自治会の行事の中で行っているが、参加が少ないのでどうなるか。
- (座長) まとめとして、ふれあいサロンについては、「高齢者の集いの場」の説明を加えること、また、アンケートの提出期限は、3月25日(土)から3月20日(月)に前倒しをすることとしたい。記載方法については、事務局に一任願いたい。
次回の地域会議(高齢者ケア)は、5月20日(土)13時30分から同じ場所で開催したい。内容は、アンケート調査結果について、ご議論いただきたい。
- (副委員長) 本日は、長時間ご苦労様でした。講師の大和様には、ご講演有難うございました。これをもって閉会とします。

※ きらめきデイサービスについて質問がありましたが、後日、市の高齢者支援課に確認しましたので、詳細は下記を参照ください。

※きらめきデイサービス事業とは

高齢者を対象に、地域交流・社会参加・健康づくり・寝たきり予防を目的とした「きらめきデイサービス事業」をいう。(我孫子市ホームページから) 現在、市内22箇所で開催されている。運営は市民の自主的な活動による。

(高齢者支援課担当者に確認)

自治会でも可能・・・「藤和天王台ハイタウン ハイタウンなごみの会」で登録

条件：従来型ふれあいサロン(60歳以上) 助成金1人1回150円

強化型ふれあいサロン(65歳以上)を今年3月から実施。

筋力アップ、口腔体操等介護予防の活動が必須

既設の団体には徐々に切り替えて貰うようお願いしている。

助成金1人1回200円、

事業の助成金は市の一般会計予算・・・介護保険の予算枠は使用していない。

※別紙「我孫子市きらめきデイサービス事業規則」を添付します。